

お知らせ

記者発表資料 令和元年8月19日

同時発表先：合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

災害に備え防災通信機器の設営訓練を実施します

～ 災害発生時の情報収集及び提供を迅速に確立するために ～

国土交通省中国地方整備局では、災害時の応急復旧作業の支援を行うため、防災通信機器、災害対策機械を使用して、災害情報の迅速かつ効果的な収集及び自治体への災害情報の提供行っております。

この訓練は、管内の災害対応やTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）活動等を迅速かつ確実に実施できるよう、国土交通省防災業務計画に基づき災害発生時の通信の確保を図るため、中国地方整備局が保有する衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT II）等の防災通信機器や対策本部車等の災害対策機械の設営・操作技術の習熟を目的として「防災通信訓練」を実施するものです。

- 訓練日時 令和元年8月22日（木） 14:00～16:00
- 訓練場所 中国技術事務所（配置図は別図を参照）
（広島県広島市安芸区船越南2-8-1）
- 訓練内容 （別紙1「訓練概要」を参照）
- 取材対応 （別紙1「5. 取材について」を参照）
- 訓練の目的

管内の災害対応や TEC-FORCE 活動等を迅速かつ確実に実施できるよう職員を対象とした情報伝達、災害対策車両及び防災通信機器との連携した操作訓練を行うものです。

○ 問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局
電話番号（082）221-9231（代表）

（総括担当）防災室長	ふじい 藤井	いさお 勲	（内線2151）
（災害対策機械担当）企画部 施工企画課長	ふじはら 藤原	まさる 優	（内線3451）
（防災通信機器担当）企画部 情報通信技術課長	たご 田胡	まさき 匡基	（内線3351）
（広報担当窓口）広報広聴対策官	いわした 岩下	やすひさ 恭久	（内線2117）
企画部 環境調整官	さかもと 坂本	やすまさ 泰正	（内線3114）

訓練概要

1. 訓練参加機関

中国地方整備局（防災室、企画部施工企画課、企画部情報通信技術課）、太田川河川事務所、広島国道事務所、温井ダム管理所、中国技術事務所、関係機関（映像伝送受信訓練）：陸上自衛隊第13旅団、広島県、広島市

2. 訓練使用機材等

- 1) 災害対策機械
対策本部車（拡幅型）、照明車（カメラ搭載）
- 2) 防災通信機器
衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT II：可搬局中国V1）、デジタル陸上移動通信システム（k-λ：携帯局）、5GHz帯無線アクセスシステム（i-RAS）、総合災害情報システム（DiMAPS）、WebTV会議（MeetingPlaza）

3. 訓練内容

- 1) 現地対策本部として対策本部車を配置し、近傍事務所との間を5GHz帯無線アクセスシステムにより通信回線を構築する。
- 2) 被災現場に配置した照明車の搭載カメラにより撮影した映像をKu-SAT IIにより衛星回線で伝送。映像は、国土交通省専用通信網を介して現地対策本部及び災害対策本部（中国地方整備局）、国土交通本省で受信する。併せて専用通信網を介して関係機関（陸上自衛隊第13旅団、広島県、広島市）へ配信訓練を実施する。
- 3) 現地対策本部（対策本部車）で総合災害情報システム（DiMAPS）及びTV会議を通して災害対策本部（中国地方整備局）、国土交通本省と情報共有、報告を行う。

4. 訓練スケジュール

- 14:00 訓練開始、各車両・機材の設営開始
- 15:00 照明車（カメラ搭載）・Ku-SAT II 設営完了（映像伝送開始）
関係機関への映像伝送訓練
- 15:15 i-RAS・対策本部車設営完了（通信回線確立）、DiMAPS 登録訓練
- 15:30 TV会議による訓練報告（国土交通本省－現地本部）
- 16:00 訓練終了

5. 取材について

- 1) 取材を希望される報道機関の方は、8月21日（水）15:00までに別紙2にて登録をお願いします。
- 2) 取材場所については中国技術事務所のみとし、その他の関係機関への取材はご遠慮願います。
- 3) 訓練は全て公開で実施します。訓練中の撮影は可能です。ただし、訓練の妨げにならないよう、担当者の指示に従ってください。
- 4) 訓練の当日、防災体制をとる等の必要が生じた場合、訓練を中止する場合があります。

防災通信訓練設備配置図 (中国技術事務所構内図)

別図

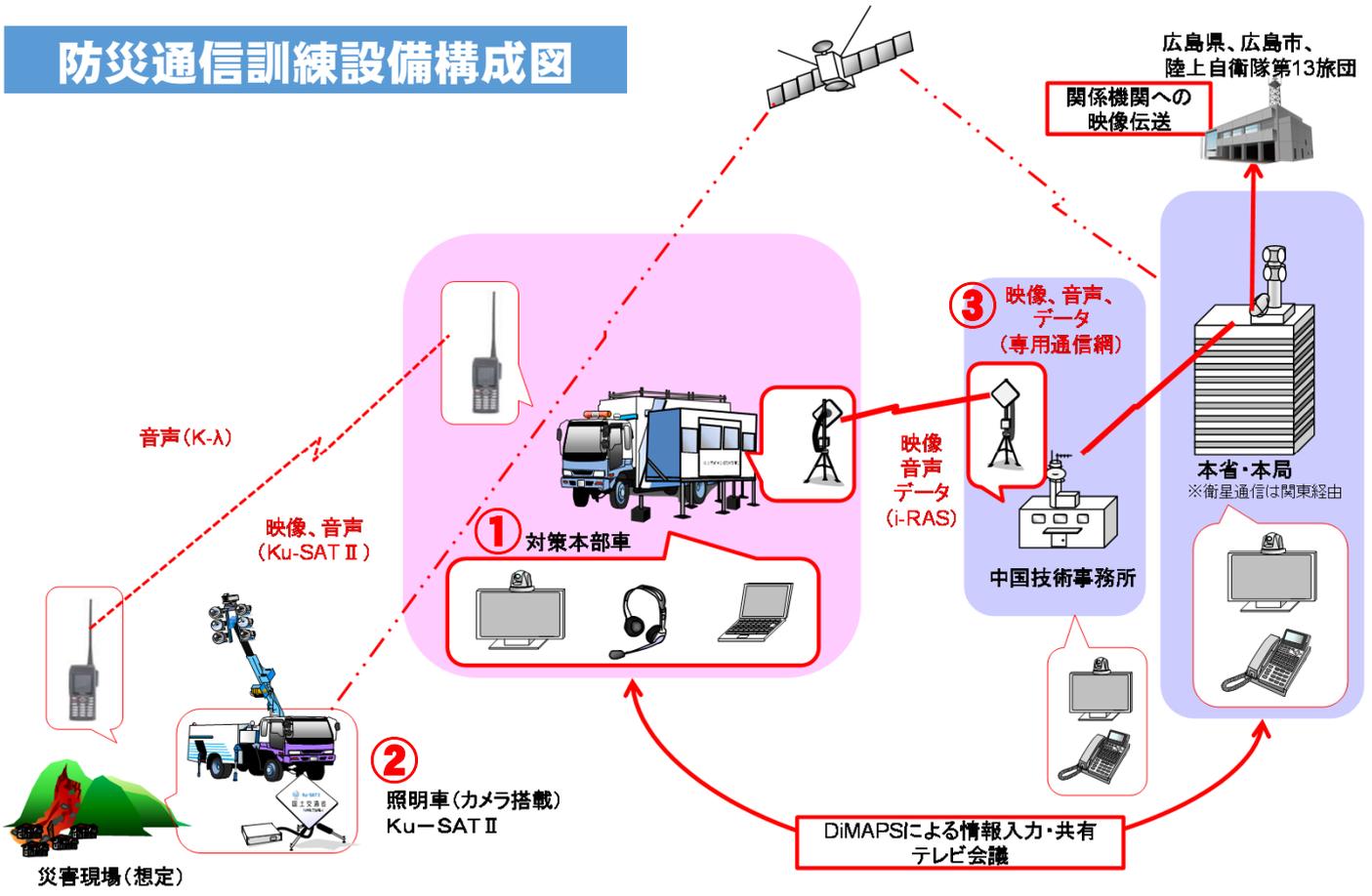


照明車(カメラ搭載)
Ku-SAT II、・K-λ

対策本部車
i-RAS、K-λ



防災通信訓練設備構成図



FAX送信先：(082) 227-2651

中国地方整備局 防災室 行

申 込 書

「防災通信訓練」の取材を申し込みます。

◎申込期限：令和元年 8月21日(水) 15:00まで

防災通信機訓練

1. 報道機関名：_____

2. 来場者氏名：_____ (予定人数 名)

3. 連絡先(TEL)：_____

(FAX)：_____

【問い合わせ先】

国土交通省 中国地方整備局 防災室

防災室長 ふじい 藤井 いさお 勲 (内線2151)

防災室課長補佐 こうの 河野 てつゆき 哲幸 (内線2154)

TEL 082-221-9231 (代表)

災害対策車両の紹介

照明車 (2kw×6灯、ブーム式)

災害が発生した場合速やかに現地に急行し、現地における復旧作業等の夜間照明をはじめ、危険箇所の監視に使用します。



主要諸元

形式	4×2 25kVA 電源付、4t トラック改造型	
性能	照明灯出力 210V、12kW(2kW×6 灯) 発電機容量 25kVA 最小回転半径 6.1 m	
主要諸元	全 長	6,620 mm
	全 幅	2,060 mm
	全 高	3,250 mm
	乗車定員	2 名
	車両総重量	7,650 kg
	機 関	4 サイクル水冷ディーゼル エンジン
	最高出力	150 PS/2,800rpm
	変速機	前進 6 段、後進 1 段 (前 2、後複 2 駆動)
その他付属品	K-λ 移動無線	
発動発電機	機 関	4 サイクル水冷ディーゼル エンジン超低騒音 32PS/1,800rpm
	連続定格出力	25kVA、60Hz、220V 定格電流 65.6A、3 相 4 線式
	燃料タンク	軽油 110ℓ (連続使用可能時間 25h)



照明装置	主照明灯	2kw×6 灯
	ランプ	メタルハライドランプ 210V、2kw 光束 200,000Lm、6 灯 75Lx 以上が幅 50m 以上
	灯 具	耐熱ガラス及びフィルター付 防雨形、中角形 6 灯
	照明用ブーム	3 段全油圧伸縮式及び最 上段部油圧折り曲げ式 投光器最大地上高 20.3m 旋回範囲 360°

対策本部車 (車体拡幅型)

災害等が発生した場合、速やかに現地に急行し、現地における対策本部として会議室や宿泊所等に使用します。車内には会議用テーブル、TV、冷暖房設備等の他、各種の通信設備が装備されています。



主要緒元

形式	SDG-GX7JLAA 型
全長	8,990mm
全幅	2,495mm (走行時) 5,450mm (拡幅時)
全高	3,650mm
軸距	4,850mm
最低地上高	175mm

長さ(室内)	4,530mm
幅	2,330mm (走行時) 5,150mm (拡幅時)
高さ	2,310mm
車両重量	10,080kg
乗車定員	2名

車両総重量	10,300kg
燃料タンク 軽油	100ℓ
発動発電機 軽油	6.2ℓ
(発電機の連続使用可能時間 18h)	

装備品

拡幅方式	電動油圧方式
通信設備	K-入 移動無線 150MHz 超短波無線、 HF・UHF・BS 放送受信装置

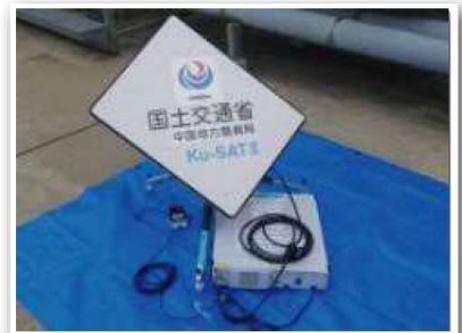
電源設備	発動発電器 (220V 60Hz/13kVA 50Hz/10.5kVA)
その他装備	カラーテレビ (地デジ・BS 対応)、 録画再生装置 (HD付・BDレコーダー) 冷暖房設備、ラジオ、 カーナビゲーションシステム、 会議用テーブル、電子レンジ

衛星小型画像伝送装置 (Ku-SAT II)

衛星小型画像伝送装置は、小型でライトバン等に積載して移動ができ、災害現場から通信衛星を介して国土交通本省、中国地方整備局及び事務所へ準動画像、電話、FAXを送る回線に使用します。

主要緒元

周波数範囲	送信：14.0～14.5Ghz
(Ku帯)	受信：12.25～12.75Ghz
伝送速度	画像：768Kbps
アンテナ径	平面アンテナ
送信出力	2.5W



付属品
カメラ装置：ハンディカム、三脚
発動発電機 100V、550VA、携帯用燃料缶付
電源コード：30mドラム

無線アクセスシステム (i-RAS)

無線アクセスシステムは、アンテナの対向通信で約30km程度離れたところから、映像や音声を配信することができ、自治体庁舎などの現地対策拠点に事務所と同等の通信環境を構築することが可能です。

主要諸元

周波数	4.9GHz帯
伝送距離	30km 晴天時見通し圏内において
伝送容量	5Mbps
アンテナ径	180×180×75(mm)
送信出力	100mw

付属品：アンテナ用三脚、設定用パソコン



【構成例】1対向での使用 (見通し可能かつ距離が30km以内の場合)

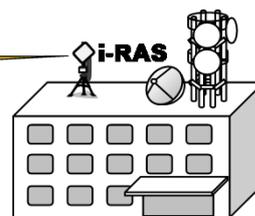


現地対策本部等



i-RAS

(見通し約30km)



事務所等

【構成例】2対向での使用 (見通し困難や距離が30km以上の場合)

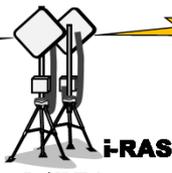


現地対策本部等



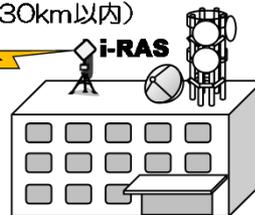
i-RAS

(見通し約30km)



中継所

(見通し約30km以内)



事務所等

見通し困難や距離が30km以上は1対向では不可

デジタル移動通信システム (k-λ)

K-LAMBDA (K-λ) Kokudokoutsuu LAnd Mobile-system By Digital Access

デジタル移動通信システムは、単信通信方式の音声通話装置で、携帯局同士での通話、または山上に整備している基地局経由で中国地方整備局及び事務所との通話が可能です。

主要諸元

周波数	150MHz帯
伝送距離	2~3km(携帯局同士、見通し圏内) ※基地局経由場合は数十km
伝送内容	音声、位置情報



携帯型

DiMAPS へのアクセスは
国土交通省トップページのバナーをクリック

(URL) <http://www.mlit.go.jp>



～災害情報をより早く、わかりやすく～

統合災害情報システム

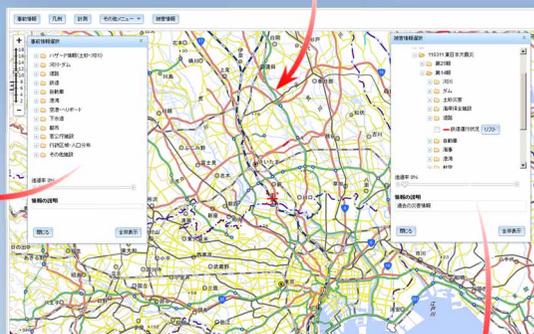
DiMAPS

(Integrated Disaster Information Mapping System)

DiMAPSが扱う事前の登録情報



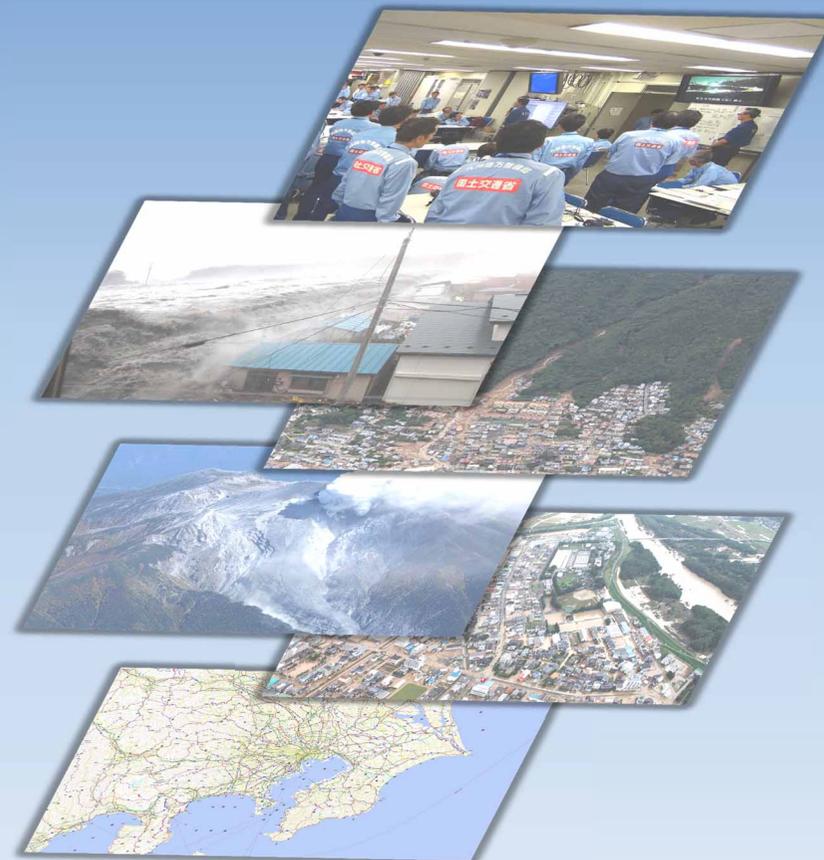
ダム、高速道路、鉄道路線・駅、バスターミナル、港湾、空港、ヘリポート、下水道処理施設、公園、官公庁施設、病院、避難施設 等を地図上で表示



DiMAPSが扱う被害情報



バスターミナル、港湾、空港、下水道処理施設、公園、土砂災害 等の被害情報を地図上又はリストで表示



※ DiMAPSの被害情報は、大規模災害発生時に「〇〇災害に関する〇月〇日〇時時点の被害情報」として時点毎に更新して表示します。
 ※ 基盤地図や登録している事前情報は定期的に更新します。
 ※ 当サイトのコンテンツを利用される場合は、国土交通省の利用規約を確認のうえご利用ください。 (<http://www.mlit.go.jp/link.html>)
 ※ 本リーフレットの記載内容は2015年11月現在のものです。

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室

〒100-8918
東京都千代田区霞が関2-1-3 (代表電話) 03-5253-8111

国土交通省 国土地理院 企画部 防災推進室

〒305-0811
茨城県つくば市北郷1番 (代表電話) 029-864-1111



国土交通省・国土地理院

災害情報をより早く、わかりやすく「DiMAPS」

統合災害情報システム（**DiMAPS**）は、地震や風水害などの自然災害発生時に、いち早く現場から災害情報を収集して、地図上にわかりやすく表示することができる、今までにない全く新しいシステムです。

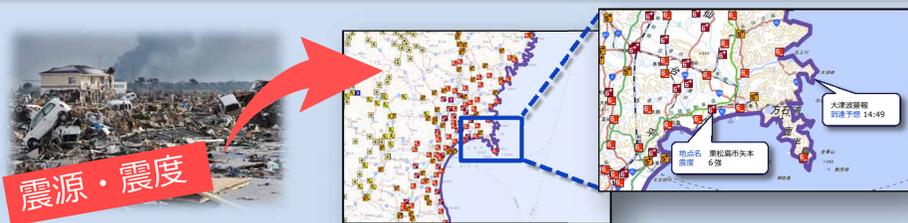
素早く集めて、どこでも誰でも見ることが可能に。

全部まとめて、自由な大きさと見ることが可能に。

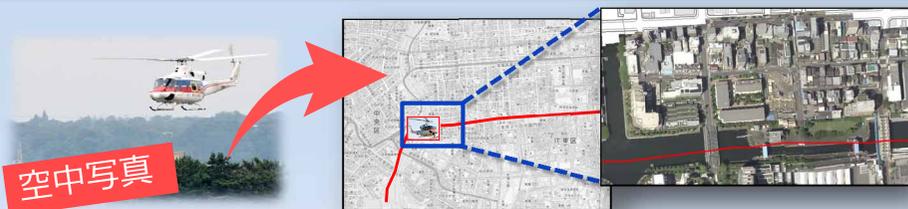
DiMAPS は、震度情報や被災地の空中写真、被害情報などを、ほぼリアルタイムで地図上に表示します。このため、被害状況を迅速に把握し、共有することが可能になります。

DiMAPS は、国土交通省が収集するインフラや交通関連の被害情報を集約して、拡大・縮小可能なシームレスな地図上で、統合して表示します。これにより、被害状況の全体像の把握と、その後の的確な意思決定を支援します。

震源・震度等に関する情報を発生直後に表示します。



防災ヘリが撮影した高画質な画像をリアルタイムで表示します。



インフラや交通関連の被害情報を垣根を越えてスピーディーに表示します。



TEC-FORCEの活動状況を現場からダイレクトに表示します。

